

シングルレバー混合水栓

LF-E340S型

左記の品番は代表品番です。品番の特定は商品の品番ラベルをご確認ください。品番ラベルの位置は「アフターサービスについて」をご覧ください。

取扱説明書

このたびは当社商品をお買い求めいただき

誠にありがとうございました。

ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。

お読みになった後、すぐ取り出せる場所に大切に保管してください。

この説明書に書かれている注意事項は、必ず守ってください。

不適切な使用により事故が生じた場合、当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

転居される場合、次に入居される方にこの説明書と保証書をお渡しください。

もくじ

安全上のご注意	1
特長	3
各部の名称	3
ご使用方法	4
ご使用上の注意	5
凍結の恐れがある場合	7
日常のお手入れ	7
定期的なお手入れ	8
定期的な部品交換のお願い	9
修理を依頼される前に	10
希望の温度が得られないとき	11
アフターサービスについて	12
保証書	裏表紙

●安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

注意 ……「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか又は物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

 ……「注意しなさい！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）

 ……「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）

 ……「分解してはいけません！」

 ……「指示した場所に触れてはいけません！」

 ……「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

注 意

水栓の左側は給湯側のため高温になっています。金具の表面に直接、肌を触れないようにしてください。
※ヤケドをする恐れがあります。



高温の湯をお使いのときには、吐水口やエコダイヤル付近は高温になっています。直接、肌を触れたり、エコダイヤルを操作したりしないでください。
※ヤケドをする恐れがあります。



高温の湯をお使いの後は、水栓内に高温の湯が残らないようしばらく水を流してください。
※次に使用すると水栓内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

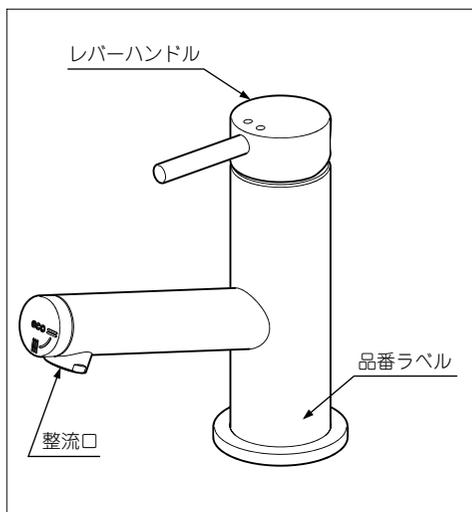
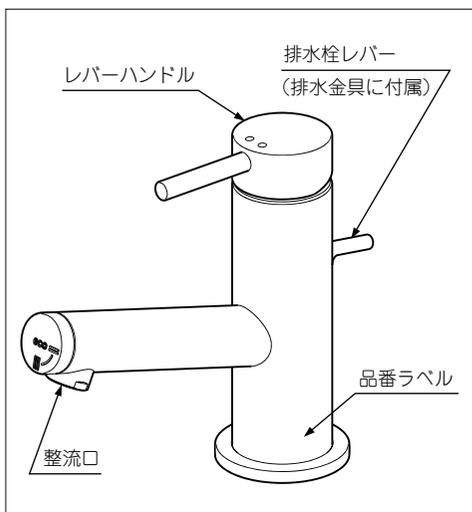


<p>お湯を止めるときは、必ずレバーハンドルを水側にしてから閉めてください。 ※次に使用すると水栓内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。</p>	
<p>お湯をお使いになるときは、必ずレバーハンドルを水側から開栓してください。その後ゆっくり湯側へ回し、お好みの温度に調節してください。 ※湯側から先に開栓すると高温の湯が吐出しヤケドをする恐れがあります。</p>	
<p>エコダイヤルを操作した後にお好みの温度調節を行ってください。 ※温度調節をした後にエコダイヤルを操作すると吐出温度が変わりヤケドする恐れがあります。</p>	
<p>凍結が予想される際は、室内を保温して氷点下にならないようにしてください。（一般地仕様の場合）寒冷地仕様の場合は、配管の水抜操作と水栓の水抜操作を行ってください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。</p>	
<p>他所の水栓の同時使用等により圧力変動が起こり、お湯の使用中に湯温が急上昇することがありますので注意してください。 ※同時使用の際は充分注意しないとヤケドをする恐れがあります。</p>	
<p>ハンドル操作の急閉止は配管からの漏水を起こすことがありますので、ゆっくり操作してください。 ※漏水で家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。</p>	
<p>レバーハンドルを操作するときは、レバーを持って操作してください。 ※レバー以外をつかんで操作すると、指をはさんでケガをする恐れがあります。</p>	
<p>メッキ面のハガレはそのまま放置しないでください。 ※メッキ面のハガレやキズでケガをする恐れがあります。</p>	
<p>修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。</p>	
<p>お使いになる前に必ず素手で適温であることを確かめてください。 ※高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。</p>	
<p>給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。</p>	

●特 長

- レバーハンドルひとつで吐出量と温度が簡単に調節でき、節水効果があります。
- エコダイヤル操作であらかじめ適量調節ができます。レバーを上げてもし過ぎることがなく、最大約50%節水できます。
- バルブはセラミックを使用し、優れた耐久性があります。
- 水を急に止めるときに発生する配管への衝撃をやわらげる機能が付いています。
- 表面の「きれいサテン」仕上げは手あかなどの汚れが目立たず、キズも付きにくい表面仕上げです。(LF-E340S(N)/SE、LF-E340SC(N)/SEの場合)

●各部の名称



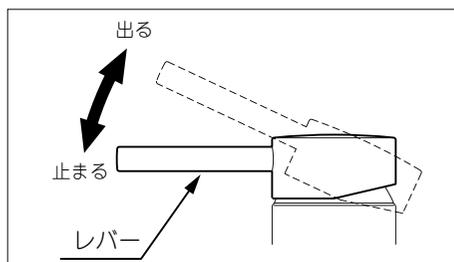
※ご使用いただく水栓は上記イラストと外観が異なる場合があります。
※寒冷地用は「凍結の恐れがある場合」の項を参照ください。

●ご使用方法

●吐出量の調節

レバーハンドルを上げると吐出し、上げ具合で吐出量を調節できます。

レバーハンドルは左右どの位置でも下げると止水します。

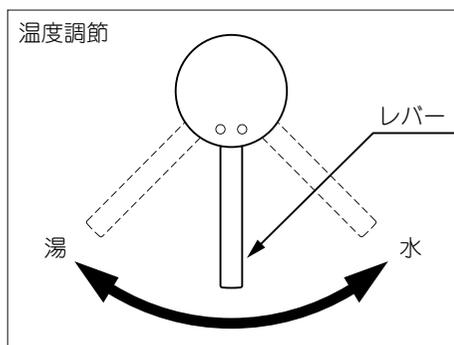


●温度の調節

レバーハンドルを左方向に回すと吐出温度が上がり、右方向に回すと下がります。

注意

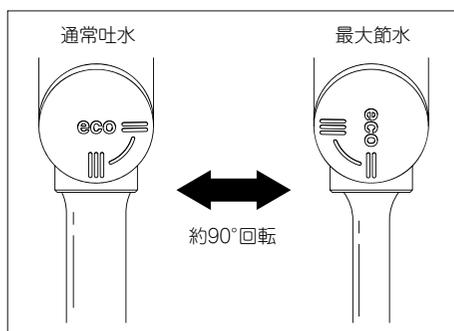
- 必ずレバーを持って操作してください。
※レバー以外をつかんで操作するとケガをする恐れがあります。



●エコダイアルの操作

エコダイアルを右方向に回すと吐出量が減り（節水）、左に回すと通常の吐出量になります。

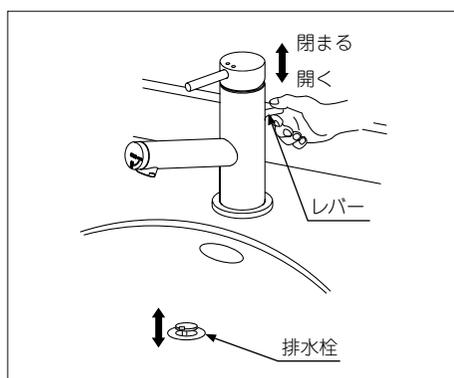
※エコダイアルの操作角度は約90°です。



●排水栓の操作

(排水栓付きの場合)

- 排水栓を閉める場合は水栓後部のレバーを引いてください。
- 排水栓を開ける場合はレバーを押してください。



●ご使用上の注意

●ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合

- 比例制御式の給湯器の設定は温度調節を高温にしてください。
- 能力切替付の給湯器では能力を季節に合わせてご使用ください。
※レバーハンドルやエコダイヤルで吐出量を絞って使用すると給湯器が着火しない場合があります。
- 給水圧が低いときや水温が高いときは、給湯器が着火しない場合があります。
このときは給湯器の設定温度（能力切替付は能力）を少し下げてください。

●吐出量の調節

水圧が高いところで使用される場合は水側の止水栓を絞ってご使用ください。湯と水の吐出量がほぼ同じになるように水の量を絞ってください。

※吐出量が多いと、特にエコダイヤルで吐出量を絞った時に、レバーハンドルの吐出量調節がしにくい場合があります。

※止水栓の調節の仕方は、P.11を参照してください。

- 水栓の左側は給湯側のため高温になっています。金具の表面に直接、肌を触れないようにしてください。



※ヤケドをする恐れがあります。

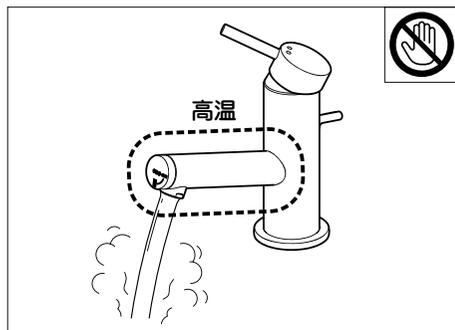
- お湯をお使いのときは、エコダイヤルを操作しないでください。



※湯温が上がり、ヤケドをする恐れがあります。

- 高温の湯をお使いのときには、吐水口やエコダイヤル付近は高温になっています。直接、肌を触れたり、エコダイヤルを操作しないでください。

※ヤケドをする恐れがあります。



- 高温の湯をお使いの後は、水栓内に高温の湯が残らないようしばらく水を流してください。



※次に使用すると水栓内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

- お湯を止めるときは、必ずレバーハンドルを水側にしてから閉めてください。



※次に使用すると水栓内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

- お湯をお使いになるときは、必ずレバーハンドルを水側から開栓してください。その後ゆっくり湯側へ回し、お好みの温度に調節してください。



※湯側から先に開栓すると高温の湯が吐出しヤケドをする恐れがあります。

- 他所の水栓の同時使用等により圧力変動が起こり、お湯の使用中に湯温が急上昇することがありますので注意してください。



※同時使用の際に充分注意しないとヤケドをする恐れがあります。

- 凍結が予想される際は、室内を保温して氷点下にならないようにしてください。(一般地仕様の場合)寒冷地仕様の場合は、配管の水抜操作と水栓の水抜操作を行ってください。



※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

- ハンドル操作の急閉止は配管からの漏水を起こすことがありますので、ゆっくり操作してください。



※漏水で家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

※水を急に止めるときに発生する配管の衝撃をやわらげる機能が付いています。このため、急に閉めようとするとハンドルが重く感じる場合があります。

- 修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。



※ケガをしたり。故障・破損の恐れがあります。

●凍結の恐れがある場合

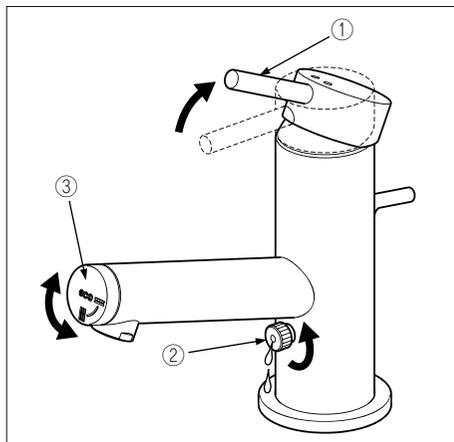
【寒冷地用をご使用の場合】

凍結が予想される場合は、次の要領で水栓の水抜きをしてください。

1. 配管の水抜栓を操作する。
2. レバーハンドル①を中央位置に合わせ全開にする。
3. 水抜栓②を開ける。
4. エコダイヤル③を2～3回左右に回す。
5. 水栓の水が抜けたら、レバーハンドル①を閉める。

※開けたまま放置するとレバーハンドル①を閉止できなくなることがあります。無理な操作をせず通水または自然解凍してください。

※再通水前には水抜栓②を開めてください。



●日常のお手入れ

いつまでもご愛用いただくために普段のお手入れは、次のことに注意してください。

- 汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。それでも落ちないときは、水ふきし、最後にからぶきしてください。
- 水栓の表面を傷める恐れのある以下のものは使用しないでください。
 - クレンザー、磨き粉等の粒子を含んだ洗剤
 - 酸性洗剤、塩素系漂白剤
 - ナイロンたわし、ブラシ等
 - シンナー、ベンジン等の溶剤

●定期的なお手入れ

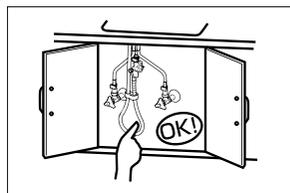
●水まわりの水漏れ（年2回以上）

- 水まわりの水漏れがないか点検してください。
- 見えない部分は特に注意が必要です。（洗面台・キッチンキャビネット内）

※劣化・摩耗などで部品が破損し、ケガをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。

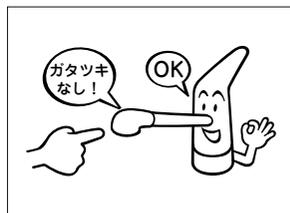


水漏れしている場合は、止水栓または元栓を閉め、お求めの取付店・販売店またはLIXIL修理受付センターへ修理をご依頼ください。



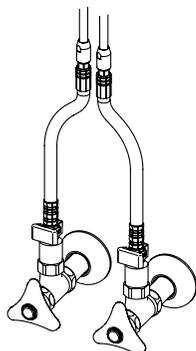
●水栓本体のガタツキ（年2回以上）

- 水栓本体のガタツキがないかを確認してください。
- ※水栓本体にガタツキがあるままお使いになると、配管に負担がかかり、水漏れの原因になります。



水栓本体にガタツキがある場合は、お求めの取付店・販売店またはLIXIL修理受付センターへ修理をご依頼ください。

●定期的な部品交換のお願い



※逆止弁は水側・湯側両方に入っています。

交換時期：3～5年

※逆止弁の交換は、お求めの取扱店またはLIXIL修理受付センターにご依頼ください。

 **0120-179-411**

LIXIL修理受付センターにご依頼の場合、修理料金は“技術料”+“出張料”+“部品代”で構成されています。

●摩耗劣化する部品交換のお願い

●部品が摩耗・劣化すると水漏れ等の原因になりますので交換が必要です。

●摩耗劣化する部品の例（水栓の種類によって異なります）

例）逆止弁、ハンドル、バルブ部（シングルレバーカートリッジ）、パッキンなど

●部品の交換については、お求めの取扱店またはLIXIL修理受付センターにご依頼ください。製品状況により、摩耗箇所以外の部品交換も必要な場合があります。

〈定期的な点検・部品交換のめやす〉

使用年

/ 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11 / 12

お客さまによる日常のお手入れ・点検

消耗部品の交換

摩耗劣化部品の交換

買換え
ご検討

●修理を依頼される前に

簡単に故障が直る場合がありますので修理を依頼される前に下記項目をご確認ください。

●吐出量が少ないとき

1. エコダイヤルが節水状態になっていないか確かめてください。
(P.4を参照)
2. 整流口等のゴミ詰まりがないことを確かめてください。
※「整流口の掃除」の項を参照ください。
3. ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合、能力切替付のものでは
適正能力にセットされていることを確かめてください。

●整流口の掃除

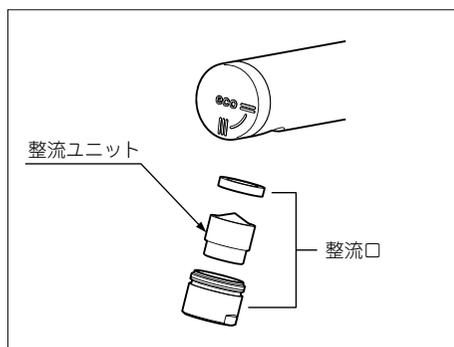
吐水口内部のゴミ詰まりは機能を低下させます。

ときどき次の要領で掃除してください。

整流口を工具(モンキーレンチ)で取り外し、整流ユニットを水で掃除してください。

※整流口の取外しは直接工具を掛

けますと、整流口をキズつける場合があります。必ず、布などを当てて工具を掛けてください。



※上記処置で故障が直らない場合は、取扱店またはLIXIL修理受付センターへご相談ください。

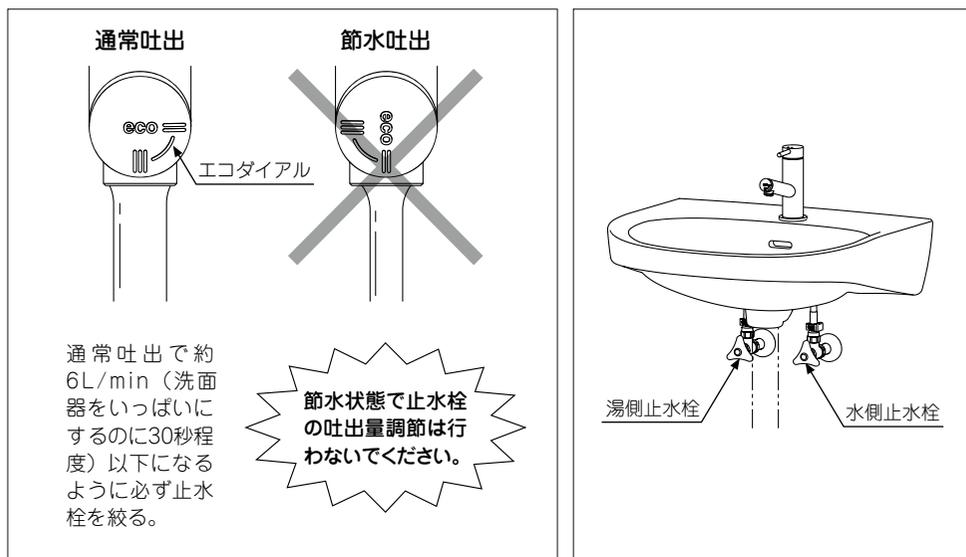
●希望の温度が得られないとき

1. エコダイヤルが節水状態になっていないか確かめてください。
「エコダイヤルの操作 (P.4) 参照」
2. 整流口のゴミ詰まりがないことを確かめてください。
「整流口の掃除 (P.10) 参照」
3. 給湯器から十分な温度のお湯がきていることを確かめてください。
4. 止水栓の開度が適正であることを確かめてください。

●吐出量の調節

湯と水の吐出量が同じで、かつエコダイヤルが通常吐出のときに、湯、水各々が約6L/min (洗面器をいっぱいにするのに30秒程度) 以下になるように必ず止水栓 (別売品) を絞ってください。

※吐出量が多すぎると、水はねや、節水吐出時にレバーハンドルでの吐出量調節がしにくくなる場合があります。



●アフターサービスについて

1. 修理サービスを依頼される前に

「修理を依頼される前に」の項(P. 10)を参照して確認してください。

⚠ 注意

修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。
※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。



2. 保証書と保証期間

この商品は保証書がついています。保証書は、取扱店で所定事項を記入してからお渡しいたします。記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間は**取付けの日から2年間**です。

保証期間内でも有料になることがありますので、保証書の記載内容をよくご確認ください。

3. 修理を依頼される時

《保証期間中は》

- 修理に際しては、保証書をご提示ください。
- 保証書の規定にしたがって修理させていただきます。

《保証期間が過ぎているときは》

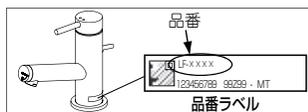
- 修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料にて修理させていただきます。

《修理料金は》

- “技術料” + “出張料” + “部品代” で構成されています。

《連絡していただきたい内容》

1. ご住所、ご氏名、電話番号
2. 商品名
3. 品番（商品に表示、右図参照）
4. ご購入日
5. 故障内容、異常の状況
6. 訪問ご希望日



※品番は最後まで読みとってご連絡ください。

4. 部品の保有期間について

当社は商品の補修用性能部品（商品の機能を維持するために必要な部品）を製造打切り後最低10年保有しています。この部品保有期間を修理対応可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますのでご相談ください。

5. アフターサービス等についておわかりにならないとき

《修理のご依頼は》お求めの取扱店または

LIXIL修理受付センターまで（ホームページアドレス <http://www.lixil.co.jp/support/>）

TEL ☎0120-179-411 受付時間9:00～19:00 **365日受付**

FAX ☎0120-179-456

《使い方・お手入れ方法等、商品についてのお問合せは》

お客さま相談センターまで

TEL ☎0120-179-400 受付時間 平日 9:00～18:00

FAX ☎0120-179-430 土日・祝日 9:00～17:00

（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

※フリーダイヤルは携帯電話・PHS・IP電話などではご利用できない場合がございます。下記番号をご利用ください。

TEL 0562-40-4050 FAX 0562-40-4053

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社ホームページの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

MEMO

MEMO

